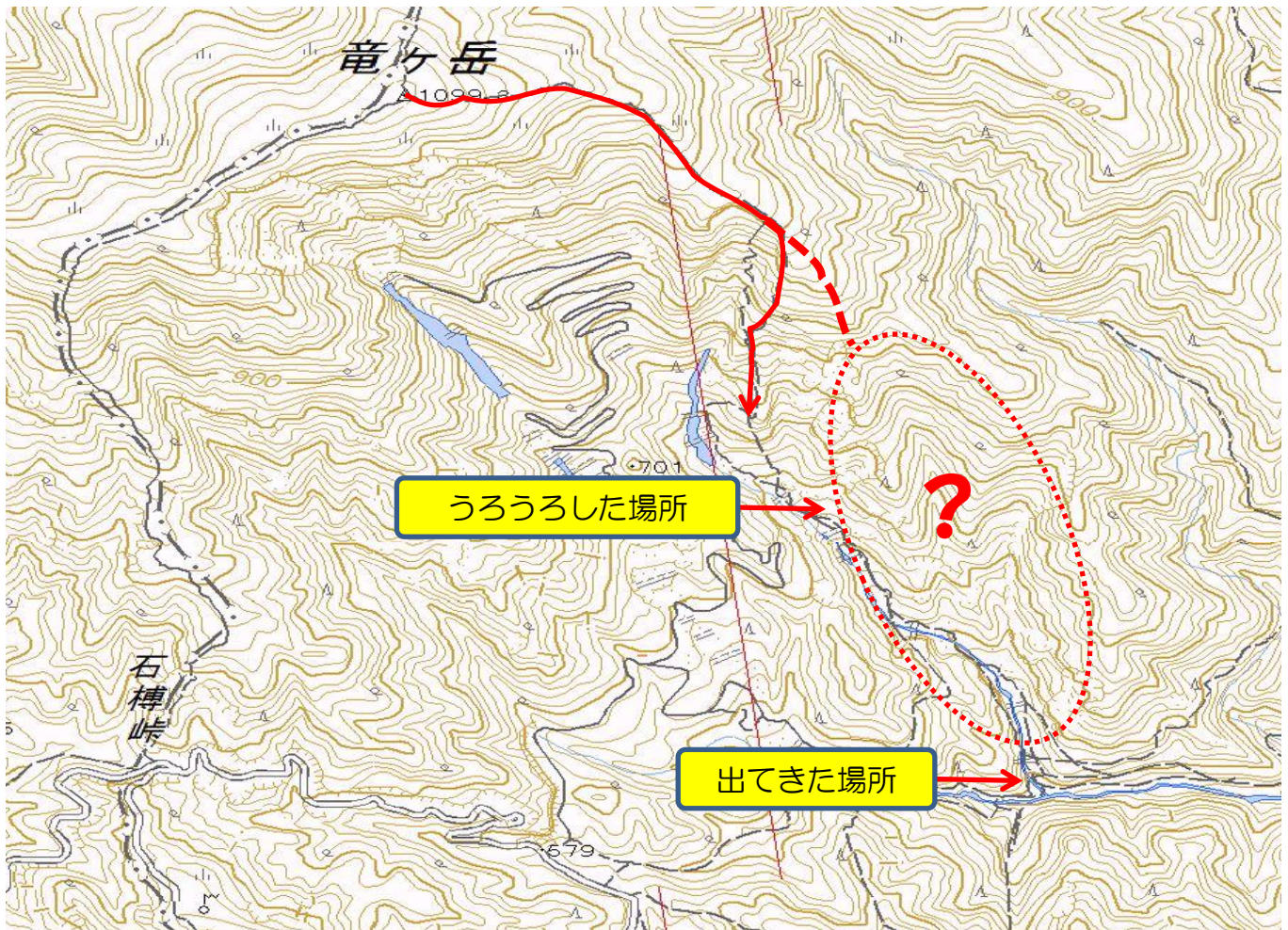


竜ヶ岳遭難(2012年以前秋)

20回以上も登った、慣れ親しんだ竜ヶ岳。ふと、違う道で帰えろうと中道を選択。登山道は落ち葉で分りにくく、道に迷ったと思ったが、さらに下ってしまう。完全に道を間違えた所で、冷静さが無くなった。倒木や岩を避けながら登ったり、下ったりを繰り返し、ようやく川に着いた時は辺りが暗くなっていた。



解説

何気なく、いつもの下山のルートと違う道を選択。道は落ち葉で分りづらいが、帰りは軽快に下ってしまった。「あれ！おかしい！」と気付いたが、「何か、目印を探せばいい。」とそのまま下り続けた。気付けば自分の周りは樹木に囲まれ、確実に道でないところまでた。初めて完全に道を見失った時、思考が止まった。一端は、歩いた道を引き返そうと戻ったが、歩いているうちに不安になり、「とにかく降りなければ」という考えが、行動を下りへ引き戻してしまう。

登山道から外れた下りの斜面は、まともに歩けず、草木を乗り越え、石をまたいだ。ペースも落ち、疲労と焦りが蓄積する。秋は、夕暮れが早く、一層焦ってしまい、想像以上に時間がかかる。夕暮れ間近に川原に出たが、ヘッドランプを忘れ、スマホの懐中電灯機能を頼りに歩き続け、午後8時過ぎに駐車場に着いた。

何気なく、いつもの道と違う道を歩く。この「何気なく」という言葉には、注意力が低下していたことがうかがえる。①初めてに近い下り道。②落ち葉で分りづらい下り道。③注意力の低下。道迷いの要素がここにはある。初めての山域は地図を見ながら注意して歩く。慣れた山だからあまり見ない。ここに落とし穴があったのだろう。自分を含め注意したい。